

中村かずひこ通信



【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4 Tel. 0285-82-6285 vol.27
ホームページ <http://www.nakamurakazuhiko.com> e-mail tonpei@i-berry.ne.jp

ごあいさつ ～『ラストスパート』の年を迎えて～

市議会議員としての任期も、残すところあと1年余りとなりました。市民の皆様には常に温かいご支援とご声援を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返ると、二宮町との合併により新・真岡市が誕生するなど、激動の1年間でありました。私自身にとっても、子ども医療費の中学3年生までの無料化や不妊治療助成の対象拡充をはじめ、これまで訴えてきた施策が少しずつ前進を遂げることができた年でした。

ラストスパートに入る今年。若い世代が胸を張って安心して働くための『雇用の創出』、さらに、分権時代を迎えて二元代表制にふさわしい『議会改革』に挑んでいく所存であります。皆様のなご一層のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

真岡市議会議員 **中村 和彦**

※公職選挙法により、議員が年賀状による新年のあいさつを行うことは禁止されています。ご了承下さい。

市民と市政のかけ橋になりたい！

☆お気軽にお声をかけて下さい。

お友達との井戸端会議、勉強会等。2～3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。

☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！

お気づきの点がございましたら、どんなささいなことでも結構です。ぜひご意見を！

12月定例議会・一般質問



12月定例議会の質疑・一般質問が、7日(月)、8日(火)、9日(水)の3日間にわたって行われ、中村は7日の5人目で登壇。計6件の一般質問を行い、執行部の考えをたどりました。

執行部の答弁では、『ライフスキル教育プログラム』について来年度から研究校を指定して実践していくことや、老朽化が著しい心身障がい児通園ホーム『ひまわり園』について平成23年度を目途に改築・移転などの対応をとる考えであることなどが明らかとなりました。

なお、今議会では14名の議員が登壇し、一般質問の日程も初めて3日間の開催となりました。(中面に関連記事)

中村が行った一般質問の内容

- 1.真岡市副市長の選任につき同意を求めることについて
(1)今回の人選に至った経緯と具体的な理由について
- 2.市長のあて職見直しについて
(1)進捗状況と今後の予定について
- 3.荒町地内に計画中の『無料低額宿泊所』について
(1)市としての対応について
- 4.雇用・経済政策について
(1)現在行われている雇用創出事業について
(2)企業誘致の推進等について
(3)起業家に対する支援策について
- 5.障がい児への支援策について
(1)日中一時支援について
(2)ひまわり園の施設整備等について
- 6.教育関係の諸課題について
(1)『生活改善・学力向上プロジェクト』について
(2)『ライフスキル教育プログラム』について
(3)教育分野における地域の人材活用について
(4)各地区の防犯ボランティアとスクールガードの連携について

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします
これまで『未来をつくる会』では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1～26号までを見逃された方は、お気軽にご相談下さい。
こちらからお送りさせていただきます。

市政改革の元気印！

『超一流のいなかまち』を目指して、
2010年も中村は全力投球で挑みます。



市議会での一般質問
(定例議会では、毎回質問を行っております)



文教常任委員会委員長として



雑紙チャレンジ活動
～雑紙で地域と世界を繋ぐ～
雑紙回収受付
2151



地元・大谷地区の夏祭りにて



ボランティアとして活動中
(『ひばりの会』にて、視覚障がい者のための音訳作業)



個人視察での1コマ
(小山市の起業家支援施設にて)

次回発行予定日
4月11日(日)
発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。



中村かずひと議会レポート

12月定例議会 一般質問

※なお、文中で「今年」は平成21年を、「来年」は平成22年を指します。

答弁者：井田 隆一 市長
佐藤 務 教育長
中村 勝博 健康福祉部長
田中 修二 教育次長

質問：中村かずひと

1. 真岡市副市長の選任につき同意を求めることについて



質問 これまで空席となっていた副市長について、今議会で総務部長の内田龍雄氏を選任したいと提案された。これまでの助役・副市長を見ると、歴代市長が自身のウィークポイントを補完する人物を選んでいただいているように思う。結果として市職員出身者が多かったのだが、井田市長は真岡市では初めてとなる生え抜きの市職員出身の市長である。市職員出身の市長が、市職員を副市長に選んだ点に若干の疑問を感じる。今回の人選に至った経緯と具体的な理由は、

答弁 現在、国と地方の役割の見直しについて重要な局面を迎え、真岡市においても各分野で行政課題が山積している。これらを早期かつ円滑に解決するためには、地方行政に精通し、強力なリーダーシップがある人材が必要である。内田氏は、約38年にわたる豊富な行政経験を有し、企業誘致のほか、産業、経済、教育など各分野における見識も高く、ちゃっとばれずの運営にも携わった経験からコスト意識にも長けており、最適任者であると考えた。

2. 市長のあて職見直しについて



質問 現在、市長のあて職は真岡鐵道の社長など32の役職に及ぶ。市長は選挙公約の中で「あて職の見直し」を公約としていたが、現時点で見直しはどこまで進んでいるのか。

答弁 市長が代表を務めている各団体に、辞任した場合の影響などについて調査を進めている。単なるあて職とは性格が異なり、辞職が困難なものもあるが、32団体のうち約1/3から1/4については代表職を譲ってまいりたい。

3. 荒町地内に計画中的『無料低額宿泊所』について



質問 生活困窮者や路上生活者の支援を目的とした『無料低額宿泊所』の整備が各地で目立っている。真岡市でも、埼玉県内のNPO法人が旧真岡デパートの建物を利用して計画している。しかし、この施設は市外から入所者を受け入れなければ運営が成り立たない。また、各地の施設ではトラブルも相次いでいる。地元自治会からも反対する決議が、治安に対する不安や中心市街地活性化への影響などを理由に出されている。市では今後どのように対応していくのか。

答弁 埼玉県内のNPO法人は、今年4月に栃木県へ『無料低額宿泊所』の開設に関し、事前相談を行っている。地域住民に対しては10月7日に住民説明会を開催したようだ。真岡市に対しては、現時点までに正式な事前協議はない。今後、市に事前協議があった場合、国の指針に基づいて対応することになる。

4. 雇用・経済政策について



質問 今年10月のハローワーク真岡管内の有効求人倍率は0.25であり、国や栃木県の平均よりも低い(国→0.44 県→0.39)。そうした中、真岡市は雇用創出のため2度にわたり補正予算を組み、その結果46名分の雇用が生まれた。市ではこれらの雇用創出事業をどのように評価しているのか。また今後、追加的な対策は考えているのか。

答弁 『緊急雇用対策事業』、『ふるさと雇用再生特別事業』で、合わせて161名の応募があった。現時点で、各雇用創出事業は平成23年まで継続することになっているので、国・県の動向を見ながら対応していく。なお、求職者は製造業を希望している方が多いので、今後もハローワーク真岡と連携を図りながら雇用の確保に努めなければならないと考えている。

質問 今年4月にコマツ真岡工場が撤退することが明らかとなり、それ以降も数社が真岡市から撤退している。この背景には世界的な不況もあるが、日本が本格的な人口減少時代を迎えて市場が縮小していることも大きな理由として挙げられる。企業誘致・撤退の動きについて、現状はどうなっているのか。また、企業のニーズ・動向を把握し、撤退の兆候をいち早く察知するためにも、市と立地企業が情報交換する常設の公的な場が必要ではないか。

答弁 第4工業団地では、残り1区画の契約締結に向けて交渉中である。第5工業団地では、6社と交渉を続けており、契約が実現すれば分譲率は90%を超える。大和田産業団地については3社から引き合いがある。また、立地企業との情報交換については、(社)真岡工業団地総合管理協会の総会や定例会、その他各種の懇談会で情報交換を行っており、引き続き実施していく。

質問 現在行われている企業誘致の推進や緊急避難的な雇用対策と並んで、もう一つ考えるべきなのが、新しい地場産業や起業家に対する育成・支援策である。栃木県産業振興センターによれば、不況の今日も起業しようという県民は多いとのことであった。真岡市として起業熱を喚起し、事業化を促す独自の施策が必要ではないか。また、6月定例議会でも提案したが、小売業や飲食業の起業家を対象とする『チャレンジショップ』については、どこまで検討が進んでいるのか。

答弁 真岡市では、起業家支援施設として『MOP21』を開設しているほか、育成支援を栃木県産業振興センターと連携して行っている。また、起業家を対象として真岡市商工振興資金の融資制度により、創業資金として500万円を限度に低金利で融資している。『チャレンジショップ』については、6市で空き店舗対策として取り組んでいたが、補助の期間終了に伴い運営が困難となり、廃止になった経緯もあるので、今後検討していきたい。

5. 障がい児への支援策について



質問 支援施設などで、障がい児に日中の活動の場を提供する『日中一時支援事業』は、これまで保護者から充実化を求める声が多く寄せられてきた。そうした中、真岡市では今年度から各施設の委託単価を引き上げ、『日中一時支援事業』が安定的に行われるよう対策が講じられてきたが、各施設の受け入れ体制はどこまで改善されたのか。

答弁 『日中一時支援事業』については、今年度から委託単価を約3割増額させた結果、休日の利用も可能な宇都宮市の障がい福祉サービス事業所『ひばり』と新たに委託契約を結び、受け入れ体制の拡充を図ってきた。今後も利用者の増加が見込まれるので、関係機関との連携を図りながら実施していきたい。

質問 心身障がい児通園ホーム『ひまわり園』は、中村小学校旧長田分校の木造校舎を再利用しており老朽化が著しい。
①できるだけ早急に改築・移転などの対応が必要と考えるが。
②療育メニューについて、作業療法士などの専門家を配置し、指導体制の充実化を図ってはどうか。

答弁 ①現在の『ひまわり園』の建物は老朽化が著しく、早急な対応が必要である。今後、市の方針が定まり次第、保護者や郡内他町の意見を聞きながら整備計画を進めていきたい。
②また、『ひまわり園』では月2回程度、外部から講師を招いて機能回復訓練などを実施している。作業療法士の配置については、現在のところ考えていないが、さらなる療育の充実を図るため利用者のニーズを把握していく。

6.教育関係の諸課題 について



質問 山口県山陽小野田市では、市内全小中学校で『生活改善・学力向上プロジェクト』を実施している。生活改善では、TV視聴・睡眠・読書・学習などに費やす時間と学力や知能指数にどのような関係があるのか市独自に調査し、保護者にも協力を求めるようにしている。学力向上では、百マス計算や音読、漢字の書き取りなどを繰り返し行う『モジュール授業』を実施している。この結果、山陽小野田市では子ども達の学力や知能指数が大幅に伸びている。真岡市でも取り入れてはどうか。

答弁 真岡市教育委員会では昨年度、市内全小中学校にポスターを配布し「元気なあいさつ、感謝の心」を育てる取り組みを、さらに今年度は全児童生徒に「真岡市の教育」のクリアファイルを配布し、生活習慣や学習面での基礎基本の定着を図る取り組みをしている。これらは、山陽小野田市の取り組みと相通じるところがあるので、引き続き学校現場での定着を図っていく。

質問 思春期の子ども達が小グループでの議論を通じてコミュニケーション能力を高める『ライフスキル教育プログラム』について、9月定例議会で提案をさせていただいた。その際、『各学校に対して啓発・支援を行っていききたい』との答弁であったが、その後の進捗状況はどのようになっているのか。

答弁 9月に行われた小中学校長会において「ライフスキル教育プログラム」のPRを実施したが、現時点では学校からの実施希望は出されていない。ただし、人間関係を築くコミュニケーション能力などを育むには大変有効であることから、来年度に研究校を指定し、プログラムの一層の研究を推進していきたい。

質問 長年にわたって市民が培ってきた知識や経験を教育の現場で活かそうと、現在真岡市では『学校支援ボランティア』を広く市民から募っている。
①応募状況や今後の計画はどのようになっているのか。
②学校図書館や科学教育センターの指導でも人材を活用してはどうか。

答弁 ①「学校支援ボランティア」は、今年11月から募集を開始し、来年(22年)4月から実施する予定である。ボランティアの方々には教育委員会に登録していただき、各学校の要望に対応できるよう調整していく。
②学校図書館においては、読書指導の充実を図るために司書ボランティアなども有効に活用する。また、科学教育センターについては、土日や夏休みに実施している『ものづくり教室』などの事業で、必要に応じて外部ボランティアを活用したい。

質問 平成17年12月に旧今市市で女子児童が誘拐・殺害された。これを受けて栃木県では全市町にスクールガード(担当:学校教育課)を配置する事業を開始した。一方、真岡市ではその2年前から『はつらつ地域づくり事業』の中で、防犯ボランティア(担当:安全安心課)が各地区で行われている。双方で情報が共有化されにくく、保険の加入も統一されていないなどの課題もあるので、担当部署を一元化し、事業そのものも統一させてはどうか。

答弁 防犯ボランティア活動は、実施地域が偏在しており、活動時間もまちまちである。一方、スクールガードは、全小中学校の登下校の時間に合わせて巡回活動などを行っている。実施方法やねらいが異なっているので、現時点ではそれぞれの部署で事業を展開することが望ましいと考えている。不審者情報などについては、共有化が図られるよう連絡体制の強化を図っていく。また、これらの事業については「市民総合賠償補償保険」に加入して対応している。

再質問・再々質問・要望



市長のあて職見直しについて

質問 32ある市長のあて職のうち見直しが可能なのは1/3から1/4、数としては8から10になるが、これは最終的な数字なのか、それとも今後も増えていく可能性はあるのか。

答弁 今後、各団体の総会などを迎える中で、この数字は増えるものと考えている。

荒町地内に計画中の『無料低額宿泊所』について

質問 荒町に計画中の『無料低額宿泊所』は、埼玉県内のNPO法人が計画しているものである。同法人は埼玉県内でも同様の施設を運営しているようだが、この施設の運営実態について市では情報を把握しているのか。

答弁 この施設については、入所人数などで疑義があり、埼玉県が調査を行っているとの話を聞いている。

質問 市町村は、この問題について何の権限もないが、何もできないということではないと思う。県や全国の市長会を通じて法的な不備を改めるよう働きかけはできる。また、分権時代の今日、『上乗せ条例』や『横出し条例』を制定し、市独自に規制を設けることも可能ではないか。

答弁 国の指針を超えて規制をかけることはできないと思っているが、市としてもこうした施設がコミュニティの中に整備されることについて疑問を感じる。市長会を通じて、国の指針が再構築されるよう働きかけていきたい。

要望

この問題でもう一つ忘れてはならないことは入居者のことである。いい加減な運営母体であれば、そのしわ寄せは必ず弱い立場の人へ行く。そうした観点からも、市として厳しい視点で対応していただきたい。

企業誘致・撤退の情報把握について

質問 企業誘致・撤退の問題は、真岡市にとって『生命線』である。(社)真岡工業団地総合管理協会の総会などに出席することで情報収集・意見交換をしているとのことだが、それだけでは不十分だと考える。では、これまでに企業側とはどのような要望が出されたのか。

答弁 (社)真岡工業団地総合管理協会や雇用協会などの協議の中で、各企業からの要望を聞いていきたい。また、各企業に直接出向いて要望を聞くことも必要ではないかと考えている。

要望

企業に直接出向くにしても、それ以前どのような人脈・ネットワークを作っているかが重要になる。特に市長は市職員出身でもある。民間とのパイプ作りとして公的な場の創設ということを前向きに考えていただければと思う。

『ひまわり園』の施設整備について

質問 改築・移転の問題については今後の検討課題とのことだが、老朽化が著しい施設なのだから、何年後までに結論を出すのか、具体的なスケジュールがあって然るべきではないか。

答弁 平成22年度中に保護者などの意見を確認し、改築か、移転かについての方針を決めた上で、23年度に予算化できればと考えている。

『生活改善・学力向上プロジェクト』について

質問 真岡市でも生活改善に対する呼びかけは行っているとのことだが、具体的な施策が伴わないと徹底させるのは難しい。大内中央小学校では、児童1人1人の睡眠時間やTV視聴の時間などの生活習慣を独自に調べており、学力との関係性も明確に表れている。これは、全市的に取り組むべき課題であると思うが。

答弁 真岡市教育委員会では、隔年で市内全小中学生に対して意識調査を行っている。その結果を踏まえて、子ども達の家庭教育への支援を強化していきたい。

『学校支援ボランティア』について

質問 科学教育センターでは、土日や夏休みに行われている事業の中でボランティアの活用が図れればとのことだった。では、逆にボランティアから『こういう取り組みを行いたい』という提案があった場合、教育委員会として受け入れる考えはあるのか。

答弁 科学教育センターのカリキュラムは、学校の理科教育と連携して行われている。その一方で、市民の生涯学習の推進という目的もあるので、そうした側面からボランティアの活用は有効であると考えている。



ただ今、議論の真っ最中

議員定数等検討委員会

● 合併協議会の『28名以内』を踏まえて ●

二宮町との合併後、真岡市議会の定数は6名増えて28名。ただし、合併協議会での決定事項として、合併後最初に行なわれる市議会議員選挙の議員定数については、『28名以内で新市において決定する』ということが定められています。

そうしたことを踏まえ、真岡市議会では、9月24日から当選期別の代表と各会派の代表が集まり『議員定数等検討委員会』が行なわれています。

『財政状況が厳しくなる中で、定数削減は避けられない』『多様な民意の集約のために、削減はすべきでない』等々…。現在も議論が続いています。

参考資料

県内及び周辺市(人口8万人程度)の議員定数

(人口は平成20年3月末の住民基本台帳)

市名	人口	議員定数	1議員あたりの人口	市名	人口	議員定数	1議員あたりの人口	市名	人口	議員定数	1議員あたりの人口
宇都宮	503,682	48	10,493	矢板	35,745	16	2,234	筑西(茨)	112,544	26	4,329
足利	157,040	28	5,609	那須塩原	115,388	30	3,846	神栖(茨)	90,925	26	3,247
栃木	81,295	20	4,065	さくら	42,839	24	1,863	館林(群)	78,468	24	3,270
佐野	124,053	28	4,430	那須烏山	30,962	20	1,548	渋川(群)	86,441	30	2,881
鹿沼	103,841	28	3,709	下野	59,580	24	2,483	行田(埼)	87,421	24	3,643
日光	94,026	30	3,134	石岡(茨)	81,951	26	3,415	飯能(埼)	82,767	21	3,941
小山	157,523	30	5,251	笠間(茨)	81,175	28*	2,899	本庄(埼)	79,615	30**	2,654
真岡	83,002	28	2,964	牛久(茨)	78,353	22	3,562	東松山(埼)	88,179	22	4,008
大田原	74,631	29	2,573	龍ヶ崎(茨)	79,199	26	3,046				

※次回の選挙で、笠間市の定数は24、本庄市は22となる予定。

委員会のメンバー

(◎、○はそれぞれ正副委員長)

◎田上 稔 議員 ○浅山 俊夫 議員 白滝 裕 議長 布施 實 副議長
西田 一之 議員 鈴木 俊夫 議員 大滝 盛 議員 蕎麦田 公一 議員
高橋 昇 議員 海老原 宏至 議員 中村かずひこ

お知らせ

現在中村のホームページ上で議員定数について、皆様からのご意見を募集しています

<http://www.nakamurakazuhiko.com>

コラム むーむあっぴ

議員になって間もなく8年目に突入する。これまでの活動をふり返ってみると『議員になる前は、自分がこういう問題に関わるとは想像できなかった』というものがいくつかある。その1つが、障がい児についての問題である。

きっかけは議員になって最初の年、平成15年9月。当時1期生だった議員4名で、市内の様々な公共施設を巡った時のことである。訪れた施設の1つが『ひまわり園』だった。

長田にある心身障がい児通園ホーム『ひまわり園』は、中村小学校長田分校の校舎だった建物を利用して運営されている。

施設に足を踏み入れてまず目についたのは、イスも鎖もなく支柱のみが残された庭のブランコだった。聞けば、子ども達が遊んでいて度々外れて危ないので、そのような状態にしているのだという。建物の中に入ってみると、築40年ほど経過し老朽化が著しく、雨の日には雨漏りがするとのことだった(現在は、ブランコも雨漏りも改修されている)。

初めて『ひまわり園』を訪問した平成15年当時から、すでに真岡市は東洋経済新報社が発表している『住みよさランキング』で全国でも高い評価を受けていた。それだけに『ひまわり園』の状況は、あまりにもギャップがありすぎると感じずにはいられなかった。『障がい児や保護者のような弱い立場の人達が“住みやすい”と実感してこそ、本当の“住みやすさ”ではないか』その時に抱いた思いが、今も障がい児の問題に関わる際の自分の基本となっている。

今年度から『ひまわり園』ではスタッフが増員され、保護者達が長年要望し

『ひまわり園』をご存知ですか？

てきた母子分離通園日の拡充が図られた。また、子ども達に対する療育メニューについても、まだまだ課題はあるものの、以前と比べれば格段に改善されてきている。

しかし、その一方で『ひまわり園』の施設面における問題は、今も残されたままである。特に冬場は暖房装置こそ備わっているものの、老朽化しているためか底冷えし、利用者に不便を強いらせているのが現状だ。

12月定例議会の一般質問で、『ひまわり園』の施設について『平成22年度中に改築・移転について方針を決めた上で、23年度に予算化できれば…』と、具体的なスケジュールが示され『やっとここまで来たか…』という思いがしている。ずっと寒い冬を過ごしてきた子ども達や保護者にとって、少しは気持ちが温くなる答弁だったのではないだろうか。

無論、障がい児に関する問題は『ひまわり園』だけではない。きっと問題解決の明確なゴールもないのだろう。ただそれでも、障がい児や保護者達が“住みやすい”と実感するようになったとき、自分も胸を張って『真岡市は、住みよさランキングで…』と話すようにしたい。『ひまわり園』を初訪問した時から、そう心に決めている。



中村かずひこと未来をつくる会

中村のクリーンな政治活動を支える「中村かずひこと未来をつくる会」では個人献金に限り、カンパを受付けています。頂いたカンパは政治資金規正法にもとづいて適正に処理します。

※入会希望の方は
中村までご連絡下さい。

〔振り込み先〕
真岡信用組合本店
普通口座 2099671

中村かずひこと未来をつくる会
代表 中村和彦



中村かずひこと活動日誌

10月	11月	12月
1日 市政功労者表彰式 議員定数等検討委員会 真岡市男女共同参画社会づくり市民会議	2日 あいさつボランティア 『ひばりの会』音訳作業 真岡青年会議所会員拡大交流委員会	1日 市役所担当課と接見
3日 西真岡保育園運動会	4日 熊倉町区長(1~4区)と意見交換会	2日 真岡青年会議所市民意識向上委員会
4日 二宮コミュニティセンター竣工式	5日 真岡青年会議所理事会	3日 大内中央小学校を個人視察 ハローワーク真岡を個人視察 叙勲祝賀会
5日 あいさつボランティア 真岡青年会議所理事会	6日 市民討議会inまじこ2009実行委員会	7日 質疑・一般質問1日目 ※この日、5人目として登壇 真岡青年会議所理事会
7日 市民討議会inまじこ2009実行委員会	9日 あいさつボランティア 議員定数等検討委員会	8日 質疑・一般質問2日目
11日 真岡井頭マラソン大会 もおか木綿ふれあい祭り	12日 芳賀郡市町議員自治研修会(於:日光市)	9日 質疑・一般質問3日目 真岡青年会議所総会
12日 さわかやティホーム悠々運動会	14日 真岡東小学校創立30周年記念式典 市民討議会inまじこ2009	10日 文教常任委員会 歴史資料保存館、第2学校給食センター、 にのみや野外活動センターを視察
14日 真岡青年会議所 『雑紙チャレンジ活動』勉強会	15日 大谷地区 『わかば会』設立40周年記念懇親会	15日 12月定例議会閉会 市議会だより編集委員会 議員定数等検討委員会
15日 市民討議会inまじこ2009実行委員会	17日 真岡市教育祭	18日 真岡青年会議所会員拡大交流委員会
18日 ふれあいフェスティバル	18~ 清溪セミナー(於:東京・日本青年館)	19日 やまさわの里役員会
19日 あいさつボランティア	20日	21日 真岡新聞の音訳作業 (『ひばりの会』の活動として)
20日 『ひばりの会』定例会 真岡市生涯学習推進市民会議	23日 真岡青年会議所例会 (『雑紙チャレンジ活動』の一環として)	22日 市民討議会inまじこ2009報告書を 大塚町長に提出
21日 議会だより編集委員会 もおか市民討議会2009報告書を 井田市長に提出	24日 議会運営委員会	25日 いちご情報館オープンセレモニー
26日 あいさつボランティア	26日 真岡地区PTA役員との懇談会	28日 真岡青年会議所会員拡大交流委員会
27日 真岡市生涯学習推進市民会議	27日 ひまわり園を個人視察	
28日 文教常任委員会自主勉強会 ※真岡東小学校、ライプリー教室、 科学教育センター、市立図書館を視察 真岡青年会議所例会	28日 真岡青年会議所例会 議員協議会 12月定例議会開会 一般質問の通告所を提出	
30日 真岡青年会議所市民意識向上委員会		